

新潟シティガイド

NO. 35号
《編集発行》
新潟シティガイド
《発行人》
二瓶 芳枝

古町花街のまちづくり

「古町花街の会・事務局」
「古町花街地区防災会・事務局」
「新潟大学大学院都市計画研究室・博士後期課程」



久保 有朋 様

新潟シティガイドさんの活動とも関連のある、私のいくつかの活動を簡単に紹介させていただきます。

まず、古町花街の会についてですが、この会は歴史的景観がよく残る花街として全国第一級である古町花街において、その歴史的町並みの保全、花街文化の継承・広報等の活動を行うことで、観光振興や地方創生に繋げることを目標として活動しています。主な事業としては、
①町並みや建物を保存・活用する事業

②歴史や文化・伝統を継承し発展に資する事業
③研究、広報事業を三本柱としています。

具体的には、景観保全制度「なじらね協定」への地区認定と運用支援、広小路の柳植樹の協定締結、提灯掲出による情緒ある景観演出、古町花街案内板の設置、舞踊公演「ふるまち新潟をどり」を盛り上げるための企画協力、まちの思い出マップや古写真、パネルの制作伝統文化体験イベントやシンポジウム、まち歩きの開催等を行ってきました。こうした活動が評価され、昨年には日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」にも登録して頂きました。

加えて、世話人の一人として活動している「新潟まち遺産の会」では、古町花街を含む旧新潟町を中心として、新潟にある戦前の町屋やお屋敷といった「新潟のまちの遺産」とも言える建築物と、それらによって形作られる町並みの保全と

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく



古町 花街

活用を推進する活動も行っています。

こうした古町花街の町並みや伝統文化の継承活動に加え、現在は防災にも力を加えています。古町花街も一般的な歴史的町並みが残る地区と同様、常に火災のリスクと隣り合わせの地区ですが、市民用消火栓や防火水槽等の消火設備がありません。さらに、住民も少なく、一体的かつ迅速に対応できる組織もなく、防災上多くの課題があります。そこで、今年六月、複数の町内会や商店街、花柳界、飲食店、市民組織等、古町花街地区に関わる多様な組



古町・花街の雰囲気

織・個人が連携する画期的な自主防災組織「古町花街地区防災会」を結成しました。

今後はこの組織を中心として、地域連携による消防体制の強化とともに消火設備の拡充も進めることで、古町花街の魅力溢れる歴史的町並みと伝統文化を次世代に繋いでいきたいと考えています。

最後に、今年からは「一路地連新潟古町花街魅力伝道部部长」も拝命しましたので、今後はシティガイドの方々から「楽しませるガイド」の方法を学ばせて頂きより多くのお客様に古町花街の魅力を知って頂けるよう動いていきたいと思えます。

えんでこ新コース

信濃川3橋と やすらぎ堤展望散策



深澤 一彦

平成二十六年初夏、村上市歩く会のメンバー十七名様が、新潟の繁華街と信濃川河畔を歩きたいとの要望を受け、往路白山神社スタートで上古町、本町市場から萬代橋西詰へ、降りて復路のやすらぎ堤を、リュートピアがゴールのまち歩きをした。その際市街の中心部に、広い信濃川と重厚な萬代橋、兩岸のやすらぎ堤のロケーションに、皆さんすごく感激されていた姿に強く印象づけられた。他から来られた人達にこんな喜び、しかも白山を起点としたコースが身近にあったことに気づかされた。その三年後に、中央区地域課主催のえんでこ担当に熱心な担当係長が来られてから、新規コースの相談を時々受けるようになり、それがきっかけで標記のコースもその一つとして、今年度から実施されることになった。コースの概要について、目的は信濃川の蛇行がうんだ新潟島の地形とリバーサイドの左右の展望が売りだろう。



八千代橋欄干から
萬代橋方面を望む

スタートは左岸県政記念館前から。一つ目の昭和大橋を渡り、右岸やすらぎ堤から対岸の白山公園方面を望む。そのまま旧新潟地方気象台裏に向かいながら、対岸の川端町方面を望みつつ、八千代橋をくぐり、上つて二つ目の八千代橋を渡る。左岸のやすらぎ堤から対岸の万代シティ方面を望み、レインボータワーを懐かしみ萬代橋をくぐる。グランドホテル前の水上バス乗り場から、対岸の万代島や西港方面を展望後、三つ目の萬代橋を渡る。新潟日報メディアシップの展望階まで行きゴールとなる。今きた道を振り返って終了。どうぞお楽しみに。

イザベラ・バードが歩いた新潟町



伊藤 頼子

春と秋に開催されている「えんでこまち歩き」に、今季から新しいコースが加わりました。

世界的に著名なイギリス人女性旅行家イザベラ・バードは、明治十一年に七月をかけて日本を旅し、新潟には一週間ほど滞在しました。「完訳日本奥地紀行」金坂清則訳注には、イザベラ・バードの類稀な観察力と文章力で、まちの風景から文化・宗教に至るまで、明治の新潟の様子が詳細かつリアルに記されています。

にも味わってもらいたい！イザベラ・バード来日百四十周年にあたる昨年からは、バードの魅力に憑りつかれたメンバードで研修を重ねてきました。

開催日は、まさに彼女が新潟に滞在していた時期と重なり、旅行記にも一日しか晴れなかったとあるように、今回も雨の予報でしたが、奇跡的に降りませんでした。

白山神社の美しい公園、古町、西大畑、本町と、明治の新潟とバードゆかりの地を組み合わせたルートを巡り、折々に彼女の文章も紹介しながら、脳内CGをフル稼働して明治の風景を重ねて歩く新潟のまちは、参加者にも新鮮だったようで、終了後の感想もとても好評でした。テーマ性のあるまち歩きの可能性にも手応えを感じた嬉しい一日となりました。



白山公園

私のガイド日誌

「準備万全が大切」を改めて実感



高崎 寛

五月二十六日、最高気温が三十度を超える予報のなか、中途視覚障がいの方々をガイドを行いました。コースは、新潟駅前のホテルから七福神像が立ち並び弁天商店街、新潟の公衆電話発祥の地である弁天公園、初代萬代橋の親柱のモニュメントのある流作場五差路、万代クロッシングまで。これまで何回もシティガイドによるまち歩きを利用されている団体の方々です。

今回も二十名の方とその付添いの方を含め総勢四十人近くの大グループ。盲導犬もメンバードとしてしっかりと働いていました。

とにかく皆さんには、できる限り、直接手に触れて感じ取っていただけるとを念頭に、安全にまち歩きを楽しんでいただけようことを祈りました。コース設定時の段階から担当するガイド四人で数回調査・確認を

したお蔭で、参加された皆さまに大変喜んでいただきました。

いつもの事ながら、お客さまからの「ありがとうございます。楽しかったよ。」との言葉は何よりのご褒美で達成感一杯になりました。

途中で視覚が不自由になられた方々なので、ガイドに耳を傾けながら、かつての記憶と重ね合わせられたり、ユーモアあふれるコメントに一同大笑いしたり、当方からのクイズに大きい声で答えていただくなど、ここに笑顔のまち歩きとなりました。

何事もそうであるようにガイドを行う際も、やはりその準備が万全であれば半分以上終了したようなもので、あとは天候とお客さまとのコミュニケーション次第というのを改めて実感したガイドでした。



弁天商店街七福神像

春のえんでこ下町
お店巡り
「うんめえもん」



島垣 二佳子

六月十三日(晴れ)、来週の本番に向け同期の三人で下見をする。立ち寄り店で話を伺い名物をいただきながら五時間近く歩いた。全てをお知らせしたいが、紙面の都合で一部だけ紹介する。

「やま路」は、看板娘のお孫さんが対応してくれ、茹でたての温かい笹団子をいただく。そこで、驚きの情報あり。えんでこ当日は社員旅行でお休みであった。何てことだ！早川堀では「みなと街ベーカーリー」やみなと街フレンチ「旬庭」を調べておこうと思う。「三河屋本舗」は、昔ながらのアイスクリンである。二代目の奥さんが三代目として営業を続けられていた。店主にスプーンを三つ出してもらい、一つを三人で頂戴した。



昔のアイスクリン

淡い黄色で卵の味がする。アレンジした抹茶、小倉、えちご姫があるが、プレーンを味わってもらいたい。アイスクリンもさることながら、ここでは三代目と話すことを勧めたい。

ただし、時間に余裕のある日にどうぞ。えんでこでは、フレッシユ本町で三代目とすれ違い、皆さんに紹介することが出来た。「五徳屋十兵衛」三河屋三代目が教えてくれた、町興しに一役買う居酒屋である。二階に花魁体験スタジオがある。

今も残る遊郭「五十嵐住宅」を管理しているなど興味深い。五十嵐住宅の建物に入る事も出来るそうだ。

「渡辺益二商店」声掛けするのになかなか奥さんの対応に癒される。声をかけてみるものだ。話してみるものだと改めて思う。えんでこでは、皆さんが納豆や麴を買い求められた。

「佐藤菓子店」目的の甘納豆は、五月で製造を中止されていた。気温が三十度超えした日からだそう。九月中ごろ再開されるが残念である。ここも奥さんが楽しい。店内に入って話されることを勧める。

お菓子の話は勿論、通りで撮影された映画のロケの話など話題に事欠かない。六月二十二日(時々小雨)二組のご夫婦と若い女性二人の六人をご案内する。下見で知り得た情報が、本番で役に立ちホッと胸を撫でおろす。

企画委員会研修会

山の下開門
排水機場見学



小池上 護

五月二十九日(水)快晴の下、山の下開門排水機場

に見学に行つて来ました。新潟県地域振興局機場管理課、白木義明課長様からその意味、そして今日に至るまでの歴史について詳しく聞かせてもらいました。開門は、山の下と津島屋の二ヶ所あつてその間を通船川が流れています。



山の下開門排水機場

信濃川に合流していた阿賀野川の流れが享保十六年(一七三〇)の松ヶ崎決壊により、現在のように直接日本海に注ぐ様になって川幅も狭くなり流量も極端に減りました。

そこでその跡を整備して船が通れる様にしたのがこの通船川です。

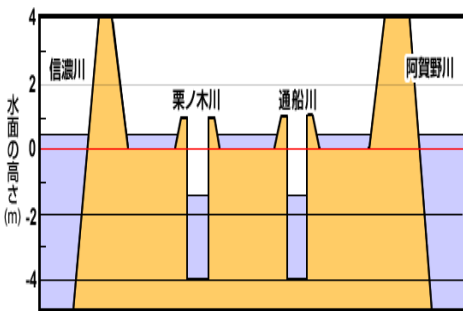
マレーシアやパプアニューギニアからの木材輸入量の多い時など、筏に組んで通船川が盛んに利用されています。現在ではプレジャーボートが利用したり、

その頻度は減っています。白木課長様は何度か話題にしましたが利用料は無料だそうです。因みに南米のパナマ運河の通行料はトン数によって異なりますが、プレジャーボートクラスで約二十七ドル(三千円)です。

途中の標高差を開門で調節しながら大型の船でも狭い航路で航行できるようにしてあります。では、標高差もなく海抜の違いもない通船川には開門が必要だったのでしょうか。

信濃川、阿賀野川の水位よりも約二m低くしてあります。その為堤防を造らずに済んでいます。

新潟市内に五十五ヶ所ある排水機場のお陰で浸水被害を免れている事も、ガイドとして知るべき事と思われました。



山の下開門排水機場 (HPより)

まち歩き観光ガイド
スキルアップ講座に
参加して



倉地 一則

平成三十一年三月二十一日、新潟市役所で、まち歩きガイドスキルアップ講座が開催されました。

新潟シティガイドの二十六名を含む、新津、白根、大野、沢海など市内十一の団体から五十八名が参加しました。

講師は横浜シティガイド協会の嶋田昌子様。

「ガイドの心得と長続きの秘訣」と題した講演と質問タイムの二部構成です。講演では、まずガイドで一番大事なのは「見た目」ですとして、隣席の方と笑顔の練習をしました。話の進め方は、大きなことから小さなことへ。高い所から見渡して、それから個々の話に入っていき、話し方は(は)はつきり、



嶋田 昌子様

(さ)最後まで(み)短くなど
初心者の私には、特に注意しなければならぬガイドの基本を教えていただきました。

運営を長続きさせるコツは話し合いと上下関係を作らないことといえます。

これからは他団体とネットワークを組んだ事業展開をお薦めしていましたが、イザベラ・バードに注目した県内の取組みを絶賛していました。



横浜ランドマークタワー69階の眺望
象の鼻パーク、山下公園、氷川丸方面

後半は五、六人のグループに分かれて、自己紹介と講演の感想を出し合い、嶋田さんに質問する項目をまとめました。

初参加の私は、各団体の課題を聞くことが出来て、とても参考になりました。

質問タイムでは嶋田様から、質問攻めのお客様へ裏技の対処方法や外国人には翻訳機の普及を意識して、正しく短い日本語で話すことが大切というお話が印象的でした。

参加された団体ごとに状況は様々かもしれませんが、新潟市内で活躍しておられるまち歩きガイドの皆さんが、一堂に会して勉強し意見交換ができる貴重な機会でした。これからもぜひ継続して開催していただけたら有り難いと思います。

「戦争の記憶」を語り継ぐ



渡辺 博

七十四年前の八月十日、新潟市はアメリカの艦載機による激し銃爆撃を受け、多くの犠牲者を出した。

市は、この日を「平和祈念」の日と定め、平成十年新潟港を望む水戸教公園に「平和祈念碑」を建立、毎年献花式を行っている。この「祈念碑」は市出身の兵士や銃爆撃・触雷など

で亡くなられた多くの市民をはじめ強制連行、あるいは捕虜として市で亡くなられた多数の外国人も共に慰霊をしている。



宇品丸慰霊碑

現在の平和と繁栄はこのような尊い犠牲の上に築かれている事を忘れず、再び悲惨な戦争を繰り返す事がないよう後世に伝えなければならぬ。

現在、この事実を「語り部」として伝えるのはシティガイドの我々だけであるが、それでも年間百名を超える市民を案内している。観光地ばかりでなく、このような「戦争の記録」が残る場所も案内する事が、我々に課せられた役割の一つと考えており、この地を

語り継いで行かなければならないと思っている。

編集後記

新潟シティガイド広報紙の創設者、加藤文夫様がご逝去されました。新潟シティガイド一期生として発行から携わり「新潟シティガイド」の活躍を、会員の皆様や多くの地域の方々に伝えてきました。新潟シティガイドのすべてのコースを歩き写真撮影や資料の作成などをし、研修を重ねブラッシュアップしていく姿勢は、ガイドとしての探求心の高さを教えて頂きました。ブログの更新など広報活動も熱心にされていきました。広報紙の題字「新潟シティガイド」を継承するとともに、ガイドとしての姿勢も引き継いでいきたいと思います。

加藤様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

広報委員 柴野 雅子